

NEWS RELEASE

2021年7月12日

「埼玉県生団連」発足会を開催いたしました



国民生活産業・消費者団体連合会 略称：生団連(本部:東京都港区、会長:小川 賢太郎)は、7月8日、「地域生団連」の第一弾として、「埼玉県生団連」発足会を開催いたしました。

生団連は「国民の生活・生命を守る」という使命のもと、500を超える企業、業界団体、消費者団体、NPO等が結束し、日本で初めて設立された「**国民団体**」です。2011年の発足以降、**生活者視点を大切に**、「国家財政の見える化」、「生活者としての外国人の受入れ」、「エネルギー・原発問題」、「災害支援スキームの構築」などの国民的課題について、それぞれ委員会を立ち上げ調査研究・議論を行うとともに、政官への提言活動や国民的議論の喚起に向けた活動に取り組んで参りました。そして、こうした国民的課題への取り組みについて、**より生活者に近い立場で具体課題にフォーカスした議論を行い、政策提言を実現させていくステージ**にあると考え、地域生団連の立ち上げを組織決定いたしました。その地域生団連の第一弾が、この度発足した「埼玉県生団連」です。

本会冒頭、生団連小川会長は、地域課題にも深く関わっている国民的課題を地域ごとに議論し解決に向けた活動を行うことが、市民生活の向上および事業活動の発展につながり、地域の活性化をもたらすと語られました。「この埼玉県において“民主主義のベースキャンプ”をつくり、明るい日本の未来をめざして一緒に汗をかいていきましょう。」という力強いメッセージを発信されました。



▲ 生団連 小川会長

※詳細は裏面に記載しています。

【会長、副会長挨拶】



◀ 柿沼会長

埼玉県生団連会長に就任した埼玉県地域婦人会連合会の柿沼トミ子会長は、地域の特性としてみれば埼玉県は中小企業が多いとし、だからこそ情報交換を密にし、異業種を超えたつながりにより、連携をもっと強めていかないと語られました。そして、「皆様からお力を貸していただき、埼玉の歯車を行政と一緒に、ぐるっと回していけるよう努めたい」と、熱意を込めて話されました。



◀ 川野副会長

同じく埼玉県生団連副会長に就任した株式会社ヤオコーの川野幸夫代表取締役会長は、かつての戦争の時代からの国家と国民とのあり方について振り返られ、「生産者主権」から「生活者主権」への転換が必要であると語られました。そして、「埼玉県の生活者の皆様方の生活の豊かさ、そして幸せを発信することで、日本の大きな構造改革を実現したい」と考えを述べられました。

【来賓祝辞】



▲大野 埼玉県知事



▲埼玉県議会 永瀬委員長
(木下議長代理)



▲山口衆議院議員

ご来賓を代表して大野元裕 埼玉県知事、永瀬秀樹 埼玉県議会産業労働企業委員長（木下高志 埼玉県議会議長代理）、山口泰明 衆議院議員より温かいご祝辞を頂戴したほか、多くの国会議員の皆様にご臨席賜りました。

生団連は、埼玉県生団連の発足を皮切りに、従来より取り組んでいる国民的課題に関する議論を地域で行い、政・官、行政と協働を積み重ねていくことで、課題解決に向けた推進力アップを図って参ります。

皆様におかれましては、今後ますますの生団連活動への積極的なご参画を何卒よろしくお願い申し上げます。